

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
E112J006		絵画Ⅱ(映像メディア表現を含む。) (PaintingⅡ)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	1	2	教育学部 ≪令和2年度 以降入学生用 ≫	後期	月1	日本語		単独							
担当教員	氏名 石田 翔太														
	E-mail ishida-syouta@oita-u.ac.jp 内線														
授業の概要	本授業では、絵画と映像メディア表現を中心に、造形的思考を養いながら、個々の感性を活かした作品制作に取り組みます。ポスターカラーおよびアクリル絵の具を用いて、イメージの生成から色彩や造形による表現方法を習得し、映像メディア表現への応用も学びます。また、鑑賞会を通じて多角的な視点を得ることで、自らの表現をさらに発展させていきます。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	絵画および映像メディア表現に関する絵具、道具、機材の基礎的な使い方や技法について説明し、実演することができる。							○							
目標2	色彩や造形、立体感、質感、混色、発色法など、絵画表現と描画に関する基本的な考え方を理解し、表現することができる。									○					
目標3	観察に関する技能を習得し、対象から感じ取ったことをもとに自ら主題を生成し、表現に応用することができる。											○			
目標4	制作の様子や作品記録画像をもとにした映像メディア表現の可能性について探り、表現することができる。									○					
目標5	作品制作と鑑賞を通して、自分が感じたことや考えたことを的確に言葉で説明することができる。								○						
目標6	作品鑑賞を通して、受講者相互の多様な描画表現のあり方や思想について尊重し、意見交換など協力することができる。										○				
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)								3	1	3	1	2			
授業の内容															
1	オリエンテーション、ナラティブドローイング①:感性の育成と基礎的絵画表現のために														
2	ナラティブドローイング②:色彩と造形、イメージの生成とことば														
3	ナラティブドローイング③:造形的思考としてのビジュアル、感性の交換と鑑賞会														
4	ポスターカラーを用いた絵画の制作(イメージ画)①:支持体の準備と構想														
5	ポスターカラーを用いた絵画制作②:ポスターカラーの特徴と使用方法。【映像メディア表現への活用】アニメーションの作り方														
6	ポスターカラーを用いた絵画制作③:筆やペインティングナイフ、その他道具による描法														
7	ポスターカラーを用いた絵画制作④:水を用いた表現。【映像メディア表現への活用】撮影準備														
8	ポスターカラーを用いた絵画制作⑤:混色及び発色の仕組み。【映像メディア表現への活用】シナリオ・絵コンテ作成														
9	ポスターカラーを用いた絵画制作⑥:表面仕上げに関する作業、感性の交換と鑑賞会														
10	アクリル絵の具を用いた絵画制作(具象画)①:支持体の準備と構想。【映像メディア表現への活用】静止画の活用														
11	アクリル絵の具を用いた絵画制作②:アクリルの特徴と使用方法														
12	アクリル絵の具を用いた絵画制作③:描き進め方(グレイズ、スクラブル)。【映像メディア表現への活用】音声編集														
13	アクリル絵の具を用いた絵画制作④:アクリルメディウムの効果と表現・意図														
14	アクリル絵の具を用いた絵画制作⑤:マチュールの生成。【映像メディア表現への活用】画像編集														
15	アクリル絵の具を用いた絵画制作⑥:絵画作品の展示法、総合鑑賞会														
ラーニングゴール	A:知識の定着・確認	○	受講者は制作時に感じたこと、考えたことをメモにして貯め、制作のナラティブを形成する。実技課題ごとに行う作品鑑賞会は作品のプレゼンテーションと意見交流を行う。さらに、受講者の制作メモを活用し、受講者間で相互作用的に感性の育成を促進させる。				工夫その他の	制作メモを活用した「感性の交換」により、知識と技術だけでなく、美的感性の育成にも取り組む。							
	B:意見の表現・交換	○													
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造	○													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	各課題で作品のプランニングを行う。(7h) 様々な絵画作品や映像メディア作品について調べる。課題に関する描画材料について調べ、準備する。(7h)													
	事後学修	自身の作品制作に応じた技術や描画材料、異分野の知見について学習し、制作に反映させる。絵画表現や映像メディア表現に関する基本的な知識を得る。(7h)													
	想定時間合計	21													
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントなどを使用する。														
参考書	必要に応じてプリントの配布や参考資料を紹介する。また、以下を参考書として挙げる。 やまだようこ『やまだようこ著作集5 ナラティブ研究 語りの共同生成』新曜社、2021年、ISBN9784788517035 ゲルハルト・リヒター『ゲルハルト・リヒター写真論/絵画論』淡交社、2005年、ISBN9784473032553														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実技課題作品	60%	○	○	○							
	作品制作に関するプレゼンテーション、意見発表	20%		○	○	○	○					
	問題意識、目的意識	20%	○	○	○	○	○					
		すべての制作課題の完成、提出を単位取得の条件とする。										
注意事項	授業で使用する絵具などの描画材は受講者が準備する（詳細は第1回で説明する）。画用紙など、授業で使用する一部の画材材料費を集める（目安として1,500円程度）。 絵画制作に取り組むため、衣服に絵具などが付着することがある。受講者は各自その点に対策すること。											
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の有無	○											
教員の 実務経験	中学校、高等学校教職員											
実務経験を いかした教育内容	実際の教育現場で想定される問題や課題、教授法の事例を紹介して教職意識を高めると共に、その適切な対応法を身につける。											